

(3) 工事・総合

固定架台と可動式架台の月別太  
(江別市で)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
固定(75度)	65	83	109	86	78	68	67	69	77	75	46	46	869
固定(90度)	63	79	101	72	59	50	51	54	64	66	42	43	744
可動式(20、60度)	65	84	114	107	120	110	105	98	92	80	48	46	1,069

位・kwh)

北海道経済産業局は、  
ほくでんエコエナジー

(本社・札幌)や江別市と共同で取り組んだ「積雪の影響を受けない太陽光発電システムの開発・実証事業」の結果をまとめた。パネルの傾斜角について、集合住宅などの外壁に設置するペランダ型の場合は75度が90度、地上設置の可動式架台の場合は、4-9月は20度、冬場を含む10-3月は60度にする。発電効率が良いことを確認。年間を通して、道外と変わらない電力量が得られるとの結論に至った。可動式架台の設置コストは、固定架台の2割増しに抑えられることも実証した。

事業は、経産局の委託を受けたほくでんエコエナジーが、ことし1月と2月に江別市内で実施した。市役所庁舎の南側壁面に、75度と90度の2タイプ

# 道経産、ほくでんエコ エナジーなど実証結果

ペランダ型パネルをそれぞれ設け、発電量を調べた。ペランダ型は北弘電社(本社・札幌)、可動式架台などは北海道電気工事(同)が設置した。

市役所庁舎の実験で得られた発電量は、75度の場合で1月が66キロワット、2月が80キロワット、90度の場合で1月が67キロワット、2月が78キロワットとなった。

この結果から年間の発電量を推計すると、75度では869キロワット、90度では744キロワットに達し、積雪寒冷地の道内であつても、同様の条件で東京、広島に設置した場合と同等か上回る発電量になることが分かった。東京の年間発電量は76度で845キロワット、90度で702キロワット、広島は75度が908

キロワット、90度が736キロワットとなる。ペランダ型は、外壁改修や新築時の設置が主だが、架台設置や補強、設置に伴う防水工事が必要ないことから、通常の陸屋根タイプよりも大幅なコスト削減を図ることが

一方、いずみ野小隣接地の実験では、冬場は傾斜角を45度以上にすると、積雪の影響を受けにくいことが判明。この結果、可動式架台が発電効率を考えると最適で、季節に応じた傾斜角を変えられることで、東京や広島に見劣りしない年間106

高い435万円。固定架台の2割増しとなる計算だ。

影響を受けない架台の設置方法など、施工技術に関する事項も併せて周知し、今後の普及拡大につなげる方針だ。

つているが「既存の単独槽を積極的に更新しよう」という動きは、活発とは

広報部長の上野廣之氏が基調講演。慶応大大学院教授の林美香子氏が「道とJSTが21日に年10月に締結。以来、経果を済済への寄与を目的としたセミ

経済省 山中様 (データ頂く予定)